資料4

7/9（火）

事例報告

本人の言葉で気づく本人視点

綾川町役場健康福祉課　（香川県）
地域包括支援センター　認知症地域支援推進員
川崎　孝至　（精神保健福祉士）

本日、お話ししたいこと

１．綾川町の概要と認知症施策の取組

２．「本人の言葉」を聞く取組

　本人ミーティング

３．「本人の言葉が通うあう」地域で

４．これから

「続・本人の言葉を聞く取組」をめざして

１．綾川町の概要

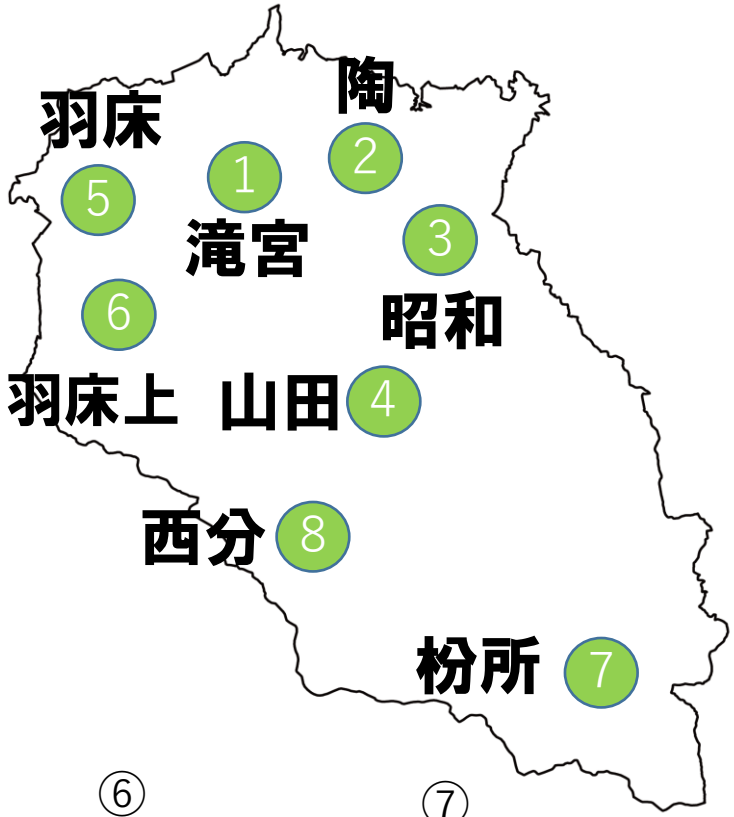
人口：23,121人　（令和6年4月1日現在）

高齢化率36.4%（旧小学校区別：30～54%）

日常生活圏域：１圏域　　包括：直営1ヶ所

写真は
スマイルあやがわ
フォトコンテストの受
賞作品等（作品紹
介はスライド最後）

①



②

⑤

③

④

⑥

⑦

⑧

認知症になってもだいじょうぶな町をめざした取組

- H18年度　介護予防サポーター養成講座（元気な高齢者が支え手に）
- H19年度　認知症地域支援体制構築モデル事業（モットーは、無理なく楽しく息長く）
- H20年度　介護予防サポーター活動が始まる
- H24年度　介護支援ボランティア（ポイント制）導入
- H25年度　高齢者声かけ・見守りまちかどほっと歓事業
- H26年度　認知症ケアパスが完成
  認知症サポート医による認知症相談開始
- H27年度　認知症行方不明者等のメール配信事業
  認知症高齢者等のGPS購入費補助事業
  脳の元気教室（1ヶ所）立ち上げ
  ほっとか連とこ100歳体操（現在52ヶ所）
- H28年度　地区医師会と合同で認知症症例検討会開始
  本人ミーティング（全国パイロット事業）
- H29年度　育育広場（チームオレンジ）の立ち上げ
- H30年度　認知症初期集中支援チームの立ち上げ
- H31年度　認知症行方不明高齢者の事前登録開始
- コロナ禍後　認知症施策推進モデル事業（ひまわり畑）
  休止していた活動の再開
  チームオレンジの横展開（講演・見学・朗読劇）

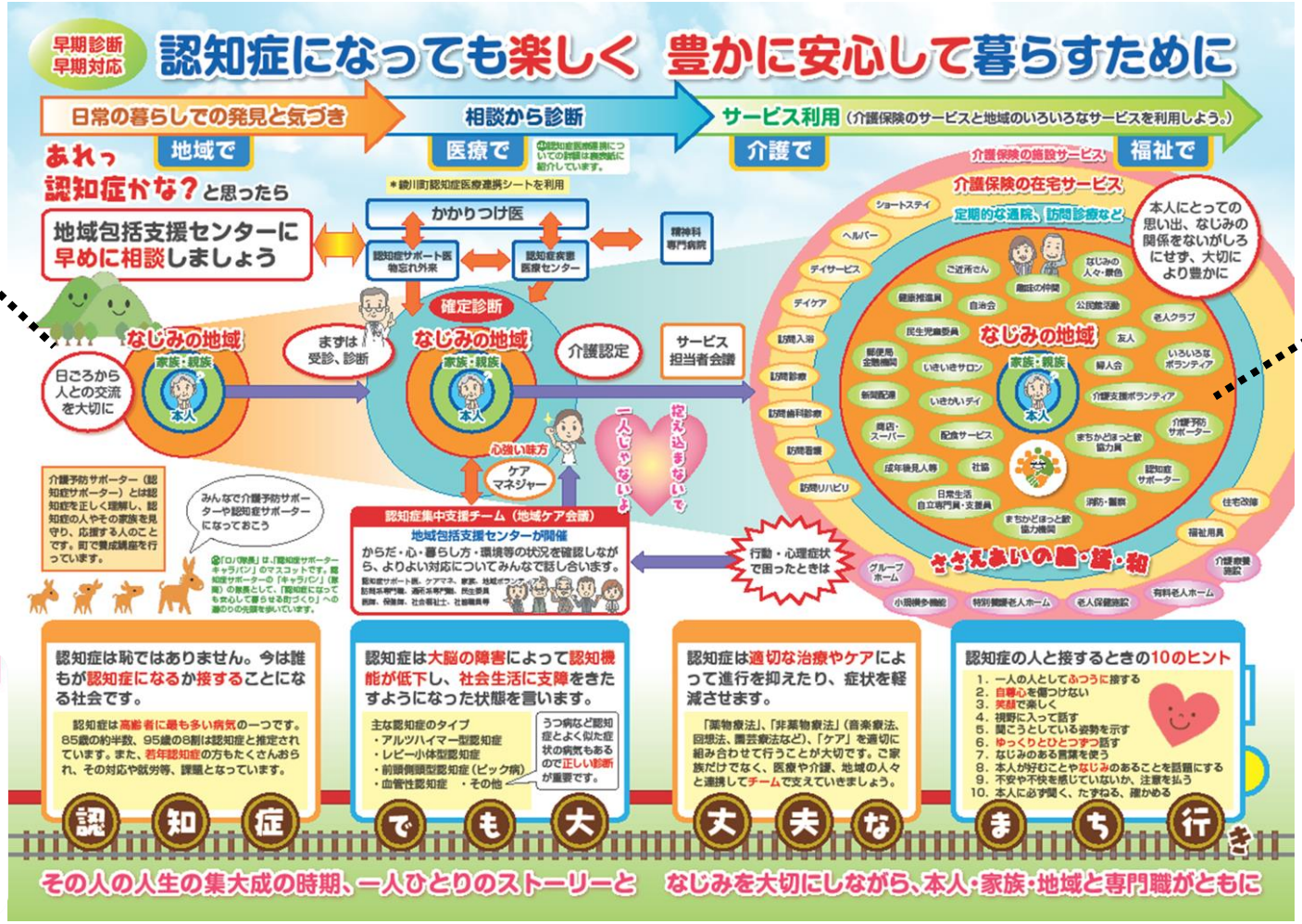
コロナ

センター方式やパーソンセンタードケアに注目

認知症になっても「だいじょうぶな町づくり」
それは「なじみの地域」づくり　　綾川町認知症ケアパス（H27作成）の特徴

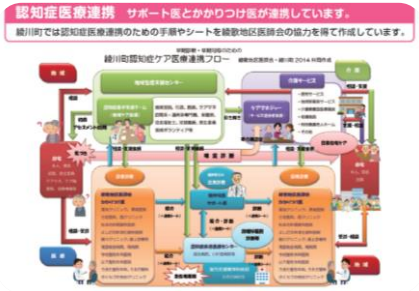
◎特徴1
<u>認知症になる前から</u>、人との交流、とりわけ地域とのつながり作りを大切にする

具体的な提案
介護予防サポーター
や認知症サポーター
になっておこう！



◎特徴2
なじみの地域とのつながりは、経過とともに広がっていく。

ご近所さん
自治会
趣味の仲間
なじみの人々
友人
公民館活動
ボランティア
民生委員
金融機関
等々…



◎特徴3
早期診断・早期対応のため、地区医師会と協同で認知症ケア医療連携フローを掲載

◎特徴4
前向きなメッセージを発信。町内の専門職や住民の声を紹介

認知症になっても生きがいを持って生活できるんだなぁ。
勇気を持ってそっと見守り、寄り添っていこうと思うんだ。など

２．「本人の言葉」を聞く取組

ー本人との出会いと本人ミーティングー

志度谷さんご夫妻の紹介

しどたに　としゆき
志度谷　利幸さん（日本認知症本人ワーキンググループ会員）

昭和24年　高松市生まれ　現在74歳

綾川町昭和地区の南かざし団地に妻と愛犬と暮らす

63歳で認知症と診断（若年性アルツハイマー型認知症）

66歳で閉業。閉業後は本人ミーティングに参加し、その後

地域の仲間とともに「育育広場（後述）」の活動を行う。

令和2年度～かがわ認知症希望大使に就任

しどたに　ひさみ
志度谷　久美さん

夫の自営業の補佐とパート勤務をしながら子育てをしてきた。

現在は、パート勤務と介護を両立中。

本人といっしょに家族として地域の活動に積極的に携わり、

育育広場副リーダーや認知症キャラバン・メイトを務める

志度谷さんの経過

64歳 2013年（H25）

66歳 2015年（H27）

67歳 2016年（H28）

68歳 2017年（H29）

69歳 2018年（H30）

70歳 2019年（H31）

71歳 2020年（R2）

72歳 2021年（R3）

73歳 2022年（R4）

74歳 2023年（R5）

現在

コロナ

- 意識消失発作⬇ペースメーカーを埋設
- 車の運転をやめる（国の方針も）
- 若年性アルツハイマー型認知症と診断 63歳のとき
- （妻、団地のラジオ体操に参加）
- 育育広場が立ち上がる
- 男の料理教室、卓球、陶芸など参加
- 仲間との出会い ⬇ 妄想消失
- **本人ミーティング**
- 10月包括支援センターに相談
- 3月で仕事を辞める。6月に妄想出現
- 活動仲間と勉強会（角先生）
- 令和元年夏・介護保険の申請
- ケアマネジャーとの出会い
- デイサービスの利用
- GPSを持つ
- かがわ認知症希望大使に就任
- 言葉が出づらい様子がみられる
- 歩行がしづらい様子がみられる
- かがわ認知症希望大使の更新
- 東京のフォーラムに出席
- 現在も育育広場・卓球・散歩・ラジオ体操・100歳体操・いきいきサロン・脳の元気教室・講演会（かがわ認知症希望大使）・介護保険サービス利用等の参加・活動を行っている

診断後も仕事を継続。退職後は地域活動に精力的に参加（活躍）

経過がたっても精力的に参加（活躍の在り方も変化）

志度谷さんご夫妻と包括の出会い

団地内のラジオ体操は、志度谷さんが認知症と
診断される数か月前から始まったもの

奥さんは体操が好きで
自然に参加していた

ある日、夫の症状のことを三井さんに相談した。すると「包括に相談を」と勧められ、その日に行った

H19年のいきいきサロン立ち上げから、地域の見守り活動、ラジオ体操、ほっとか連とこ100歳体操や育育広場等、高齢者が安心して暮らせる活動を続けて来られている古市知子民生委員さん（左）と三井雪子さん。

綾川町の

本人ミーティング

H28年度～

実施の経緯：H28年度厚生労働省の研究事業のなかで
全国10地域のパイロット地域の１つとして実施

本人といっしょに企画会議

本人ミーティングの良いところ①

本人同士が出会い、話し合うこと。
本人にとって豊かな出会い、豊かな会話の時間となる。

本人ミーティングの良いところ②

本人が話す言葉やその姿を見聞きすることで、参加者の理解が深まること。

当日：本人とパートナーのテーブル

本人ミーティング（企画会議等を含む）での言葉

あのーどういったらいいんですかね。人の言葉、**ちょっとの言葉がものすごく堪えます**。
「ちょっとぼーっとしとるのぉ」って言うのが、ぴっと聞こえたときには、**それがものすごい後できます。そういう病気**なんですよ。

自分が一番ショックなのは、若いと思っていたけど痴呆になったときは**ショック**だった。**物の考え方を変えて、慣れようと思った**。ちょっとやそっとぼけるのは**年もあるから、慣れようと思った。**

認知症と伝えて、おちょくる人もいて腹が立ったけど、それも続けると、**周りも慣れてくる**。**大したことないかと分かってくれる**。本当に嫌なことを言うのは２，３人かな。

集まって話すなら、**それぞれ出来る事があるのだから何かしたい。何ができるかを考えたい**。
同じ病気の方達といろいろ話したい。気を張らなくて良いし、話をしているうちに何か思いつくかも。

あんまり隠したり自分でどうこうするよりも、自分は認知症やと言い聞かせて、慣れたらちょっと楽になるんじゃないかって。**今までもっともっと不安だった。慣れたらだいぶ違ってくるんですね。**

集まってくれたら安心する。今日みたいだったらええんちゃう。みんなで話できた。あまり取り繕わなくていいからね。

本人の言葉で初めて、本人の感じ方や希望に気づく
「自分の中の偏見・理解不足」に気づく

３．「本人の言葉が通いあう」地域のなかで

本人ミーティングの思いもつながって生まれた

「育育広場（いくいくひろば）」がある南かざし団地

①300戸の戸建住宅団地のなかで、平成19年から「いきいきサロン・夢」が立ち上がる
②その運営ボランティアメンバーの多くが介護予防サポーターの委嘱者
③包括職員が、このメンバーを中心に介護予防サポーター活動やいきいきサロン、民生委員活動、声かけ見守り事業のモデル活動を通じて、継続的かつ温かな血が通うお付き合い

認知症の本人を中心に活動する場

育育広場（いくいくひろば）の設立（概要）

本人の声を聞くことができる場。
本人の声を日常的に聞いている家族や
地域の人たちから聞くことができる場

活動開始日	平成29年5月22日	活動場所	子育て支援施設きらり （旧昭和北保育所） ※メンバーの子どもが通った思い出の園舎
メンバーの属性	南かざし団地自治会の住民等 ※約300世帯 団地の高齢化率：約50% （町全体約36%）	活動時間	毎週火曜日午前９時～11時
メンバー	現　20名 （延参加実人数　２４名） ※メンバーは全員が団塊の世代 ※認知症の本人／延４名	運営	メンバーによる自主運営 ※リーダー、副リーダー1名 ※包括は後方支援
目的	認知症になっても住み慣れた地域で、楽しく生きがいを持ちながら、安心して暮らし続けるための場所作りと世代交流の在り方を模索する場		
主な活動内容	①菜園の管理 ②特技を活かした社会貢献活動 ③定例会 ④世代間交流活動 ⑤本人発信等		

※H31年度～チームオレンジとして

本人の言葉が通いあう地域のなかで

本人

望む暮らし

症状のこと

仲間のこと

家族

望む暮らし

家での本人の
言葉や様子

家族の思い

本人の
望む暮らし
（に近いかも）

関わるなかで
深まる理解

日々の見守り・
声かけ・ちょっ
とした手助け

本人の望む暮らし
を応援。
いっしょに考え続
けるパートナーへ

地域の
皆さん

【気づき】本人の言葉が通い合うと
理解がつながる。
声かけや見守りがつながる。
お互いさまの明るい気持ち・安心がつながる。

４．これから

「続・本人の言葉を聞く取組」をめざして

・本人の言葉を聞くことを普段から身近に
・経過が進んでも聞くことを続ける

本人の言葉を聞くことを普段から身近に

さまざまな場面で多様な人とともに

どんな会話が生まれますか？

●本人ミーティング
●地域の通いの場で
・介護予防サポーター活動　・育育広場　・ほっとか連とこ
100歳体操　・いきいきサロン　・元気でやりよる会　・カフェ
・びなんかずらの会　・集いの場　・ラジオ体操　・安心広場
●日々の暮らしのなかで
・レクリエーション　・公園　・散歩しながら　・移動中に
・イベント　・食事会　・本人の家　・手紙のやりとり
●個別支援の現場で
・窓口　・訪問　・面談
●地域ケア会議で
・個別支援会議　・地域の見守りネットワーク会議　等々

・何気ない会話のなかで
・なじみの仲間と
・なじみの場所で
・二人からでも

認知症地域支援推進員として
どの場面でも本人の声が地域の人や
関係者との間に「通い合う」ことを大切に。

経過が進んでも、聞くことを続ける
ご家族が丁寧に本人の言葉を聞かれたもの（令和5年1月30日）

育育広場は自由にさせてくれる。
何もしなくてもいいのが良い。
何もしなくても怒られんのがいい。
ゲームも楽しい。
おやつも嬉しい。
皆がやさしいんがええ！

やっぱり卓球が好きや。
歩くんは元気でいたいんで
歩くんや

認知症は自分で自分をいじめるんや、それが分かって良かったけれど、今、思った事を忘れる。人に何か聞かれても言おうとして忘れてつらい。
※デイサービスではそういうとき、頭を抱えている様子もある

妻が仕事の日はデイサービスに行っている。迎えに来てくれて皆やさしい。行っている時、どこにいるのか分からないことがあるんがいかん。知っている人に声をかけられて少し安心する。
※どこにいるか分からないとき「帰らないといかん」と思ってしまう。

近くに居る人は（自分のことを）よく知ってくれているみたいで、いろいろ助けてくれる。
自分も頑張らないといかんと思う。
※ラジオ体操やウォーキングに参加していると感じるのだそう。

コロナで息子が帰って来れんくなった代わりに、えがお（包括）のあの人が気に掛けてくれている。
顔見るだけでも安心する。
色々話しておもしろい。

かがわ認知症希望大使の紹介のため、妻の久美さんが
毎日少しずつ聞きながら作られたものです。「本人の言葉を、私の
言葉を加えずにつくりました」とのメッセージを頂きました。

まとめ

①本人に聞くことが一番大切

・本人の言葉で、本人の思いを初めて知ることができる。
　（自分の気づき、理解不足、業務の振り返りにもなる）
・経過が進んでも、本人の思いはある。必ずある。
・もしかしたらその日、その時間は話せないかもしれないが
　その一瞬で決めつけないようにしたい。
・言葉が出なくても、目や表情で伝わることもある。そのことを
　なじみの人と話しあうと理解が深まることも多い。

②本人の言葉をみんなで聞き、そのことについて話をする

・本人の言葉が家族、地域の人、関係者に「通うこと」で、本人の
　望む暮らしに近づくのではないかと感じている。
　※本人と家族となじみの人たちが話せる場ができると良いのかも

（推測）本人が出会いから今まで変わらずに思っているのではないか
と思うこと「気を張らずに、取り繕わずに話したい」

使用写真の紹介
（住まいるあやがわフォトコンテスト受賞作品）

	開催	賞	作品名	撮影者
1	第６回	優秀賞	五年ぶりの賑わい	大池孝志さん
2	第６回	優秀賞	赤光の朝焼け	三好英運さん
3	第６回	入選	いつもの散歩道	飯間弘光さん
4	第５回	入選	お田植まつり	高畠重則さん
5	第６回	入選	おさんぽ雲と羽床富士	谷口浩之さん
7	第６回	優秀賞	秋の柏原渓谷	三井秀範さん
8	第２回	入選	名木開花	高木正澄さん